

令和4(2022)年「正覚寺報」2月号

お知らせ

「初講」は、新型コロナウイルス第六波蔓延の折から、2/20(日)に延期となった後、最終的に中止となりました。2/6(日)予定の打合せ役員会は、2/5(土)に役員最小限人数で打合せを行い、初講資料は配付して戴きました。

宗祖御誕生850年&立教開宗800年慶讃法要(滋賀組&正覚寺原案)は改めてご説明戴く機会がある予定です。仏婦例会は実施致します

記

2月16日(水)19時半～佛教婦人会例会。

本願力のめぐみゆえ

新型コロナ蔓延の折から、却ってご本山の「音御堂(おとみどう)」は、過年度分も含めていつでもご覧戴ける親しいものとなりました。

昨年の正覚寺報恩講で、藤澤信照先生からご紹介戴いた「本願力のめぐみゆえ」は、2020年の音御堂として歌唱指導も含めていつでもお聞き戴くことができます。

第一番の歌詞は、

「ほとけのみ名に帰してこそ

浄土の聖衆(ひと)のかずに入れ

本願力のめぐみゆえ

南無阿弥陀(なもあみだ)

本願力のめぐみゆえ

ただただ一心の救いかな」です。

歌詞は、意識正信偈の御文を引いて、七高僧の天親菩薩(てんじんぼさつ)によって明らかにされた本願力回向の「往相回向(おうそうえこう)」と「還相回向(げんそうえこう)」のみ教えを親しみ深くご紹介戴いたものであります。

阿弥陀如来の「往相回向」の働きによって、

衆生がお浄土に迎え取られるや否や「還相回向(げんそうえこう)」の働きにより直ちに迷いの世界に立ち返ってお慈悲のお取り次ぎに参ることができるというのは、浄土真宗のお法りの中核であります。

「仏のみ名に帰してこそ、浄土の聖衆のかずに入れ」は、深い感銘を呼び起こします。

「仏のみ名に帰す」というのは、「如来様の仰せにお任せする」という信心獲得のお法りを表す御言葉ですが、体験的にしっかり頂戴したとなるのは容易ではありません。一方、「浄土の聖衆(ひと)のかずに入れ」というのは、信心獲得の結果の御文ですが、私どもにとっては、却って親しみ易いところがあります。

因みに、さきの「いぬかみ」特養での出来事です。三十人余のお年寄り達と一緒にお内仏のあるお部屋で「らいはいの歌」をあげ、終ってお参りの皆様とお顔を合わしますと、「お坊さんやで」と指さして穏やかで和やかな表情でお迎え下さいます。その瞬間私にはそれは浄土の聖衆(ひと)そのもののお姿であり私も又そのご縁に与る。今生の衆生が浄土の聖衆のかずに入る尊い瞬間でありました。お蔭で御法話は如来様から賜って一緒に味わわせて戴いたことであります。

お法りのお心をお訊ねするとき、ときに住職は、夢の中に現れて下さる和尚様のお姿に相對し、「ああ、これが和上様の還相回向のお姿だ」と味わわせて戴く事があります。

特養のお年寄り達のお姿は、今生だというのにそのまま極楽の聖衆と思われたのです。

信一念は、信樂獲得の「とき」と「すがた」を指すとお聞かせ戴くことであります。合掌。